

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194600466		
法人名	社会福祉法人慧誠会		
事業所名	グループホーム 帯広けいせい苑 りんごの木		
所在地	北海道帯広市新町西6丁目55		
自己評価作成日	令和3年11月29日	評価結果市町村受理日	令和4年3月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvogyoCd=0194600466-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和3年12月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人一人が輝けるように日常の中で役割を持ち、テーブル拭きや掃除の手伝い、洗濯物干し等生活の中でのお手伝いをして頂き、やって頂いた時には感謝し喜びを感じて頂く。又楽しみを持つ事も大切にしており、運動が好きな方には散歩やキャッチボールなどで楽しいと感じて頂けたと思う。

認知症対応型施設として、一人一人の認知症に合った関りを心掛け、解りやすい言葉かけや対応を常に考えながら関わらせて頂いています。又利用者の状況の変化に合わせてご家族・看護師と相談し通院等も行えた。状況の変化に伴い介護方法も変わって来る為、職員同士で相談しながらその方に合った介護を統一して行なえた。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所はJR帯広駅に近い新興住宅地にあり、近くの帯広河川敷の堤防には桜や木々の緑を楽しめる地域の散歩コースになっている。母体法人は帯広市を拠点として児童施設から福祉施設等を数多く運営しており、職員指導や教育等は良く行き届いており法人内の連携も密で質の高いケアを努めている。木造平屋建ての事業所は明るく清潔で、共有空間の壁には季節感ある大きな作品や飾りがあり家庭的な雰囲気を感じることができる。コロナ禍のために定期的な換気や直接接触個所のアルコール消毒と、感染症予防対策を施している。認知症対応型の介護施設ならではの対応にこだわり、一人ひとり丁寧に関わろうと支援に繋げている。コロナ禍で感染予防の考慮しながらも小さなイベントや気分転換ができるよう職員が考え、利用者の表情は明るく穏やかであり、日々の共同生活の楽しさが伝わっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	○			○	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています(参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている(参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている(参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念をもとに年度計画をたて、利用者・ご家族の為に職員同士が日々考え、実行し、より良い生活が送れるように実践している。	法人の基本理念を基に、新人職員に対しても共有できるように工夫している。新人担当職員と理念について読み合わせをしたりケア理念について実践できるよう意識付けている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	利用者との散歩中に、挨拶をさせて頂いたりして、少ない時間ではあるが、交流を図っている。	町内会に加入しているが、町内の行事等での交流は自粛している。感染症予防を行いながら、事業所周辺や隣接する堤防への散歩時に地域住民と会った時には挨拶したりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度もコロナ禍でなかなか地域貢献できていない現状はあるが、入居の申し込みや、相談などでお話をさせて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナで顔を合わせての開催は出来ていないが、書面にて利用者の様子、コロナの対応などを情報として送らせて頂いている。	コロナ禍の為、通常の運営推進会議の代わり書面会議として2ヶ月に1回開催している。事故報告や活動報告、コロナ感染対策等について議事録をまとめ、参加者に送付し意見や要望を得て、運営に反映させている。議事録には行事等の写真も添付し状況が理解しやすいように工夫している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生保の方の通院での連絡や認定調査などで協力関係を持つ事が出来たと思う。	生活保護受給者について担当ケースワーカーと病院受診についての相談をしたり、介護保険課と認定調査の相談をする等、市担当者との関係性を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現状身体拘束はないです。その他には、不適切ケアというところは、職員同士が気に掛けあいながら日々行っている。	身体拘束適正化委員会は2ヶ月毎に実施しており、委員会の内容を内部研修にて身体拘束は常に学び、運営に活かしている。言葉による拘束も相手にどのように伝わるかを考察し、不適切なケアになるケースを学びながら職員全員で共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉使いや対応など職員間で互いに気を付けながら対応させて頂いている。		

グループホーム 帯広けいせい苑 りんごの木

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に携わる機会は今年度なかった。自立支援事業についても学ぶ機会がなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際、時間をかけて、ご家族とお話ししながら行い、不明な点はその都度ご理解を得ながら契約をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の方に何かあったときにはご家族様にご連絡をしています。その際必ず、他にご意見や要望は何かないかなどのお話をさせて頂いている。	利用者との日々の関わりの中から希望・要望を聞くよう心掛けている。コロナ禍の為に家族の面会制限を設けており、事前連絡をもらって窓越しの面会や家族からの意見も得るよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と話し合いエアコンの設置や利用者の認定調査申請等を行なえた。	管理者は日々の業務の中で職員の思いや意向を把握するよう努めている。また、管理者による個別面談も実施し、職員から出された意見や提案は運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の考えをよく聞くようにしている。どんなことを思っているか、利用者の事をどのように考えているのかなど。又、有給などもとりやすい環境ではないかと思われる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度新人職員が配属になり、チーム全体で職員育成に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度も、他施設との交流はなかったが、機会があれば参加したいという職員もいるので、機会を探していきたいと思っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時に本人とお話しし、ここで何に重点を置きながら生活をして頂くかを話の中で考え職員同士で共有していく。又今後の話もその時にお話し出来ている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に、家や以前の生活の様子を聞き、本人・家族の思いを聞くことに重点を置いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時に、家や以前の生活の様子を聞き、本人・家族の思いを聞くことに重点を置いている。今後考えられることは、お話をし理解を得れるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で利用者が出来ることは、一緒に行い、暮らしを共有し尊重しあっている。又新しい発見は、日々録に残している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状態の変化などが見られる時には、ご報告し、以前の暮らしでどうだったかなどを情報共有している。又変化があれば逐一お伝えしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍でなかなか行きたいところに行けていないが、ドライブをしたり、散歩をしたり、インターネットで情報を出したり、馴染の理髪店に行く事をして支援を行いました。	以前住んでいた自宅や働いていた会社を見にドライブをしたり、季節に応じて桜や紅葉を見にドライブをする等、馴染みの場所に行く支援をしている。道外から移住して来た利用者が住んでいた地域をインターネットで検索して、地図情報の写真を見ながら馴染みの話をして楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の話が楽しくなるように、職員が間に入りながら支援を行った。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人へのフォローは出来ていないが、ご家族や本人が困らないように関係各所への情報提供は行わせて頂いた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コロナの中でやりたいことがあまり出来ていないのはあるが、日常のお手伝いで喜びを感じて頂いたり、身体を動かしたい要望があれば、散歩に行ったり、体操をしたり、食べたい物、飲みたい物があればご家族と相談したりして、対応させて頂いた。	利用者の言葉や表情、家族からの情報から本人の思いや意向を推察し、ケアに活かしている。意向表現が困難な場合には、表情等から汲み取ったり、家族等の意見を基に、本人本位のサービスに活かしている。	利用者一人ひとりの思いや意向、要望などを丁寧に聞き取り、何をしたいか何を食べたいか等も伺いながら、職員中心に話し合い利用者の要望に叶えられるよう努める事を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の生活歴からお仕事の話をしたり、趣味の話をしたりして、本人の言葉をたくさん聞けるように関わりを持っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日によって出来ることも変わってくるので、その状況を見極め、現状に合ったかわりを持つように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを使用し、毎月の変化なども確認し行っている。日常での変化も職員同士話し合いながら確認あっている。	介護計画は利用者や家族等の意見や要望、職員の意見を取り入れて計画作成担当者が作成するとともに、毎月のモニタリングを実施して6ヶ月から1年で見直している。利用者の状況の変化に応じて、随時介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の中で職員がどのように利用者として利用者がどのような反応をしているかも日誌や日々録などを見て確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内で様々な職種が存在する為、他職種連携が行えていると思う。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域へで見る機会は設ける事が出来なかった。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族、医師と相談しながら、薬の調整や対応方法などを検討していかれたと思われる。	かかりつけ医受診の継続を支援している。基本的には家族対応での受診になっているが、職員が付き添い受診することもある。受診記録は同行した職員や家族からの報告を基に作成しており、常に本人の状態が把握できるようになっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度看護職員が出勤しているため、その時に相談を主にしている。勤務でない時でも、何かあったときには相談したりもしている。又、他事業所の看護職員に相談なども行える環境にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、利用者が生活しやすいように情報は細かくお伝えしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	新しく入居された方には、重要事項説明書の中の重度化指針の説明をさせて頂いている。その中でここでの生活の限界などもお話しながら納得して頂いている。又系列のGH同士の会議により退去の基準等の考えている。	入居時に、重度化した場合における対応の指針を本人や家族へ説明し、同意を得ている。重度化した場合は、看取りや法人内の施設への転所等についての支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故や救急時その場の職員同士が話し合い対応を行なえたと思う。又新人職員には、その都度、対応方法や使用方法を伝えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	複合災害について職員と話すことができた。	年2回の避難訓練を実施している。複合災害時想定では机上訓練を行いながら災害時のシミュレーションを行っている。指摘を受けた複合災害を含めたマニュアルは整備しており、備蓄品についても確認及び補充を行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症対応型施設としてその人一人一人に合った対応を取らせて頂いている。言葉のイントネーションや語尾なども気をつけながら対応させて頂いている。	一人ひとりの状態やその日の状況に応じて本人に心地よい対応を考え支援している。名前を呼ぶ際にも敬意を持って行っている。排泄の場面等にはプライバシーに留意した対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一つ一つの行動で本人が解りやすい言葉を使ったり声掛けを意識して行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れはあるが、その時の本人の状態や様子で、支援を考えながら対応させて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	こだわりなども生活していくと見えてくるのでそういったところも気に掛けている。汚れたときにはすぐに交換している。		

グループホーム 帯広けいせい苑 りんごの木

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食の楽しみはもちろん。どうやったら食べやすいか、声掛けや食器の配置なども工夫し考えながら支援させて頂いている。食事前のテーブル拭きは利用者の仕事になっている。	献立や食材は業者に委託し、調理は職員が行っている。季節の行事食や誕生食は利用者の好みや要望を反映した食事を支援している。職員と利用者が一緒に和やかに準備し食事や片付けなどを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普段の食事は基より、行事や季節なども考え、本人の求めている事を考えながら支援している。水分量等医師の指示があればその都度対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは出来る人は行って頂き、磨き残しがある方は職員が仕上げ磨きを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パット・パンツの検討、排泄パターンの把握により失禁等がない様なトイレ誘導を行う様にしている。	利用者個々の排泄パターンをチェック表で把握し、さりげない促しや言葉かけを行ない支援を行なっている。リハビリパンツやパット等、状態に合わせた排泄用品で対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や運動を心がけなるべく自然排便を心がけている。又排便が見られない時にはDrへの相談も通院時に行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	楽しい入浴を心がけ支援している。又、身体の観察も行い皮膚トラブルも確認するように心がけている。一対一の時間なので沢山の話をし情報集めの場にもなっている。	週2回程度、楽しく入浴できるよう工夫している。楽しみにしている利用者が多く、時間もたっぷり取りながらいろいろな話が出る時間を設けられるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心地よく眠れるように日中の活動も意識している。又、夜間の入眠状況なども見て、昼寝なども行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院記録や薬情も確認し副作用も気に掛けながら支援させて頂いている。薬による変化が分からない時にはその都度医師や薬局に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることは継続し、出来ないことでも挑戦し、どこまでなら出来るか、そこからどう満足して頂くかを考えながら支援しております。		

グループホーム 帯広けいせい苑 りんごの木

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度もご希望に添える外出支援は出来なかったが散歩やドライブ、散髪など多くの方と接触しないような活動は行えた。	通院時で外出した際に、車窓より景色を見ながら帰るなどして、外気に触れる時間を設けている。天気の良い日には堤防への散歩したり、散髪にでかけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族に連絡し、承認を得て使用させて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の思いで、電話などは出来る様に支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	席の配置などは、利用者同士の兼ね合いも考えている。食事の席なども利用者の状態に合わせて対応させて頂いている。	共有の空間にはエアコンを新たに設置して夏・冬季間の温度設定に配慮している。また空気清浄機も設置し感染病予防にも工夫している。職員と利用者と共に手作りで季節感を感じられるような飾り付けを行い楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られたスペースではあるが、安全かつ他者との交流が持ちやすいように工夫している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・ご家族と相談し、使い慣れた物を持ってきていただいたり、家具の配置なども相談し行なった。	居室には洗面台は設置されており、ベットは持ち込みなので使い慣れたものを持参している。利用者と家族は馴染みのダンスやテレビ、家族写真などを設置して心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方の目線なども考え、見やすく、安全に生活できるように支援している。		